

未来へ続く草加本染

－ 持続可能な伝統産業への挑戦 －



草加本染
LOVERS

獨協大学 経済学部
高安健一ゼミナール 草加本染LOVERS

はじめに

私たちは、獨協大学経済学部高安健一ゼミナールに所属している“草加本染LOVERS”です。

高安ゼミでは持続可能な開発目標(SDGs)に関連した社会的課題を解決するために、実践的な学びであるプロジェクト型課題解決学習(PBL)に取り組んでいます。

草加本染LOVERSは、獨協大学のある草加市の地域復興に対して関心のあった6名のメンバーで構成され、2022年3月から活動してきました。

せんべい、皮革とともに、草加市の伝統産業である草加本染は、染料を注ぎ染めることによって表裏の差がなくきれいに色を入れることができる「注染」と呼ばれる技術を用いることが特徴です。染めを行う日の天気や温度などによって色の入り方が変わり、同じものは一つもない唯一無二の作品が生まれます。

そのような草加市の素晴らしい伝統産業である草加本染ですが、残念なことに衰退の一途をたどっています。

そこで、私たちはこの伝統産業を絶やさぬように自分達で伝統を体験して、課題を解決し、伝統産業として草加本染を未来に残していくことを目指し活動してきました。

また、この課題を解決することにより、SDGsの目標の

8「働きがいも経済成長も」

1 1「住み続けられるまちづくりを」

1 2「つくる責任 使う責任」

1 7「パートナーシップで目標を達成しよう」

の達成に貢献できると考えています。

この冊子を読むことで、草加本染を知ってもらうことはもちろん、私たちの活動によるSDGsの目標達成への過程を見ていただきたいと思います。また、活動に協力していただいた方々へインタビューを行い、活動を通じて得た知識や意見を踏まえて、私たちなりの草加本染や伝統産業に対しての提案も示しています。

私たちの活動が伝統産業の持続可能性を示し、未来へ伝統産業を残すことに貢献できることを切に願っています。

目次

はじめに	P. 1
1. 草加本染	
－SDGs(持続可能な開発目標)	P. 4
目標：8・11・12・17	
－草加本染とは	P. 7
－埼玉県伝統工芸士 昼間時良	P. 8
－草加本染の現状	P. 9
－アンケート調査結果	P. 10
2. プロジェクト活動	
－プロジェクト概要	P. 12
－課題① 認知度の低迷	P. 13
－課題② 着用機会の減少	P. 14
－課題③ 入手困難	P. 15
－成果	P. 16
－アンケート調査結果	P. 17
－協力者インタビュー	P. 19
3. 持続可能な伝統産業の条件	
－草加本染LOVERSの提言	P. 26
－草加本染の価値を適切に伝える	P. 27
－形を変えた新しい伝統へ	P. 28
－持続可能なまちづくり	P. 29
プロジェクトの感想	P. 30
草加市伝統マップ	P. 31
謝辞・Special Thanks・参考文献	P. 33

1. 草加本染



SDGs とは？

SDGsとはSustainable Development Goalsの略で、「持続可能な開発目標」と訳されます。

世界は貧困や気候変動など様々な問題に直面しており、これら地球規模の問題を解決するため、
2030年までに
持続可能でより良い世界にするために
17のゴールが設定されています。

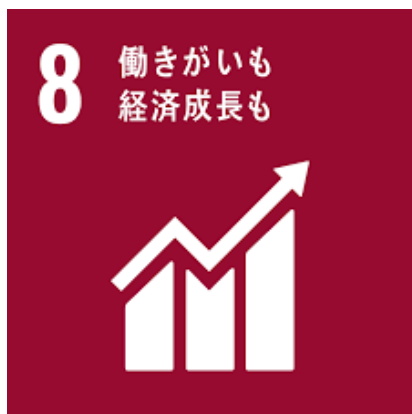
SDGsの理念は地球上の「誰一人取り残さない」ことです。
発展途上国のみならず、先進国自身が取り組む
ユニバーサルなものです。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs 目標 8,11,12,17

私たちは本染製品の製造から販売までの全ての工程を
草加市内で完結させることができました。
この活動は、SDGsの目標8,11,12,17に当てはまります。
では、それぞれの目標がどのように私たちの活動と
繋がりがあるのかを詳しく見ていきましょう。



SDGs目標 8 で掲げている「地域文化振興
産品販促に繋がる持続可能な観光業を促進す
るための政策立案・実施」に該当します。

学生でも製品の製造や展示・販売、広報を
担うことで実現できました。また、空と緑の
マルシェと学園祭、草加マルイでの販売活動
から浴衣産業にもビジネスとして成り立つ要
素があることが判明しました。



SDGs目標11で掲げている「日本の文化産
業の保護の努力の強化」に該当します。

浴衣産業における認知度の低迷や浴衣の
生産数の減少、産業の衰退という課題に対
し、私たちは浴衣の反物から手拭い、ハン
カチなどの日常使いできる製品へと変容さ
せ、文化産業の保護に貢献しました。



SDGs目標12で掲げている「廃棄物の削減及び再利用」に該当します。

製品の製作工程で出た余り生地を活用して、コースターを作ることで廃棄物の削減に貢献しました。さらに、切れ端として販売することで、購入者に自由に利用してもらえることから有効活用できます。



SDGs目標17で掲げている「さまざまなパートナーシップの経験や資源戦略による開拓」に該当します。

SDGsを達成する為には、企業や行政、市民社会を含む全員が結束し、取り組む必要があります。

＜ご協力してくださった個人・機関＞

草加市役所 ◇伝統工芸士の紹介 ◇市内外への情報発信	草加マルイ ◇販売場所の提供 ◇販売ノウハウの提供	株式会社 バニーズ ◇縫製工程
伝統工芸士 昼間時良氏 ◇染め工程 ◇反物、染料の提供	牧野昌美氏 ◇デザイン・型彫り・紗張りの各工程指導	草加 LOCAL STORY 安保幸子氏 ◇ポスター作成 ◇共同出店

草加本染とは

草加本染は主に浴衣に用いられる技術であり、江戸時代中期に江戸神田紺屋町の染色業者が大火事で焼け出され、染物に必要な水が豊富にあったことから、草加付近（日光街道沿い）に住みつき、紺屋（染物屋）を始めたのがきっかけと伝えられています。

第一次世界大戦以降は、草加の浴衣染はそれまでの『長板中形染』から、大量生産が可能な『注染中形染』へと転換され、昭和中期には全国生産量の1000万反のうち300万反を草加で生産するほどになりました。

 「ぼかし」の技術が使われた作品



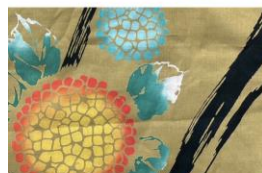
表



表



裏



裏



本染生地

プリント生地

注染技法

草加本染は、「やかん」と呼ばれる道具で染料を注ぎ染める「注染」という技法が最大の特徴です。注染により布の「表裏」が判別出来ないほどに美しく染め上げることができます。加えて「ぼかし」と呼ばれる技法で、鮮やかなグラデーションを表現することができます。

「やかん」を使った
染めの工程



埼玉県伝統工芸士 昼間時良

昼間時良氏とは

昼間時良氏（85）は、伝統的な染め技法である「注染」を継承する埼玉県で唯一の伝統工芸士です。これまで取り組んできた伝統的文化の保存や継承に関わる活動が評価され市の文化・スポーツに貢献した個人・団体に与えられる「草加市文化賞」を受賞しています。



職人としての歩み

自立心が幼い頃から誰よりも芽生えていて、「早く1人で生活して両親を楽にしてあげたい」という思いから、中学卒業後の3月から染物の世界に入ることを決意しました。

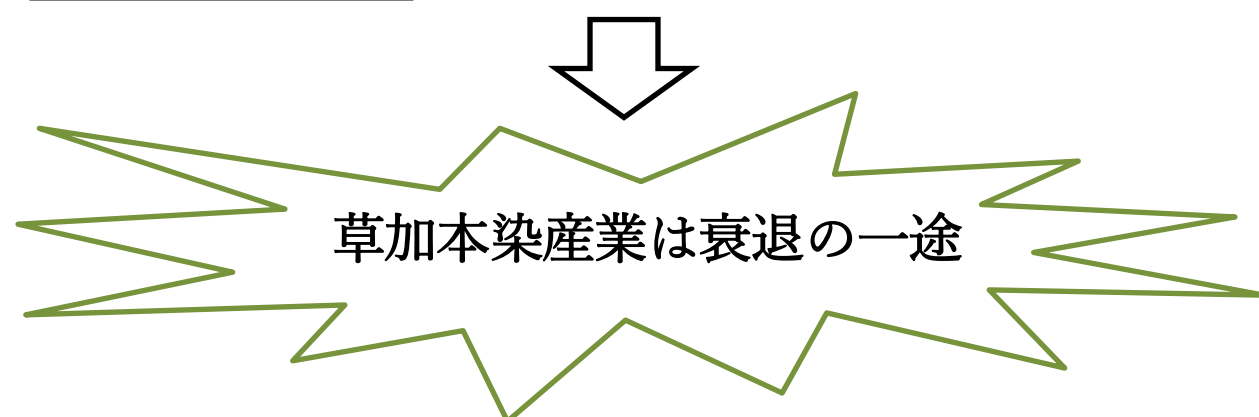
朝は1番早く仕事場へ行き、夜は最後に帰るまで働き、染物の仕事を覚えていきました。その後、職人に急な欠員が出た際に、「昼間に任せてみたら」という親方衆からの一声があり、同時期に入った仲間よりも早く職人として認められました。

草加本染の現状

1972年から73年にかけて起こったオイルショックにより売れ行きが低迷したことが、草加本染の衰退の始まりでした。

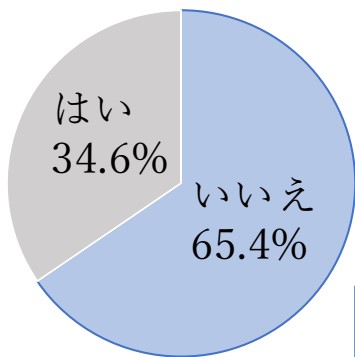


上図は、草加市内の本染工場数の推移を表しています。浴衣が普段着として着用されていた全盛期には、100軒を超える染工場が存在しました。しかし、洋服の登場や技術の進歩に伴い、浴衣の着用機会の減少や安価なプリント浴衣の増加などに押され、徐々に生産が減少していきました。また、浴衣染の糊を川で洗い落とす際に糊粕が出てしまうことが公害問題であると指摘され、処理の設備を導入することに3000万円という多大なる費用を要しました。そのため、多くの染工場は高い設備投資をするのではなく、転業を選び、染工場の減少に繋がりました。これらの要因により、現在本染を行う染工場は一軒もありません。



アンケート調査結果

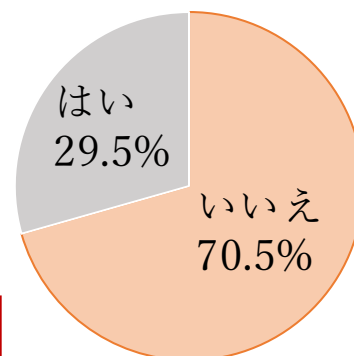
～本染製品の認知度を探る～



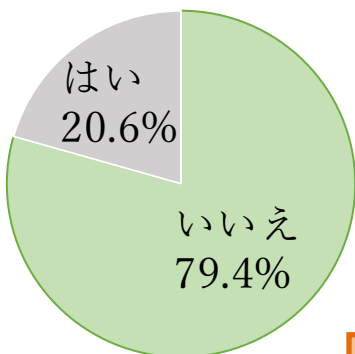
Q: 草加市の三大伝統産業の1つに「浴衣産業」が含まれていることを知っていますか？

約65%が知らない

Q: 草加市の浴衣に「本染」が用いられていることを知っていますか？



約71%が知らない



Q: 草加市の本染製品（注染が用いられた浴衣や手拭いなど）を使ったことがありますか？

約79%が使ったことがない

草加市の伝統産業に関するアンケート
実施期間：2022年9月6日～13日
実施場所：草加マルイ 1階
回答者数：136名

本染製品を使ったことがない主な理由

1. 本染製品を知らなかった
2. 使う機会がなかった、少なかった
3. 入手方法を知らなかった

2. プロジェクト活動



プロジェクト概要

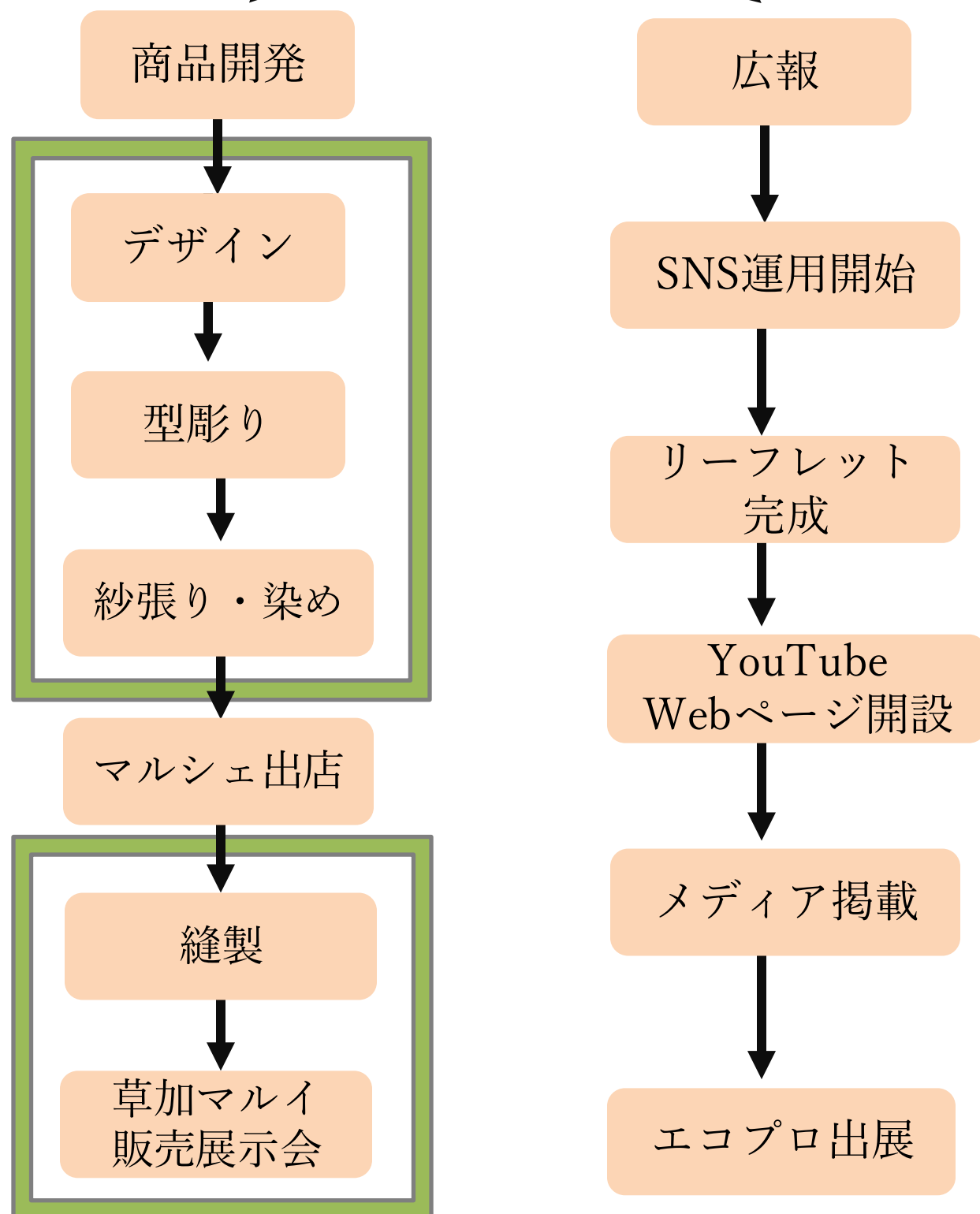
2022年4月から6月の間は情報収集に専念し、7月から本格的な活動が始まりました。下図が草加本染の課題解決に向け取り組んだ活動の軌跡です。

草加本染を
広める

アンケート結果から3つの課題を発見しました。これらを解決するために草加本染LOVERSが結成され、現在まで活動してきました。

活動内容は「商品の開発・販売」と「広報」に大別

各工程を草加市内で実施



課題① 認知度の低迷

様々な媒体や機関・機会を経て、草加本染の現状や特徴、実際の製作過程などを写真や動画で伝えてきました。これらにより、草加本染の認知度を高めて、関心層を増やすことで需要拡大に繋がります。



施策として以下の4つを実施しました。

SNS

InstagramとTwitterを運用してSDGsに触れながら、草加本染の基本情報や製品が完成するまでの過程、自分たちの製品の製作工程を発信しています。また、YouTubeでは各工程を数分の動画にまとめて投稿しています。SNSの総閲覧数は1万を超え、草加本染の認知度向上に貢献しました。

メディア

日経新聞、ちいき新聞、東武よみうり新聞の合計3社に活動が掲載されました。これにより草加市内外の様々な地域での草加本染の認知度向上に貢献しました。また、草加本染LOVERSの活動は草加市役所や獨協大学のHPをはじめとする様々なサイトに掲載され草加本染を知る機会を創出しました。

リーフレット

展示・販売会に来店した方を対象に配布しました。製品とSDGsの繋がり、草加本染製品の使用方法・注意書きなど製品についての細かい情報が掲載されています。200部以上がお客様の手に渡り、草加本染の理解を深めることに貢献しました。

展示会

販売と並行して行い、実際に店頭に並んでいる製品の製作背景や特徴を適切に伝える役割を果たしました。草加本染に使用する道具、自分達が彫った型紙、草加本染ができるまでの工程を収めた動画を放映し、来店者に対して、一番詳しく草加本染について説明できる場を提供しました。

課題② 着用機会の減少



最近では、流行のデザインを取り入れた洋服が安価で手に入るため、高価かつ着用するのに手間がかかる本染浴衣の着用機会は減少しています。



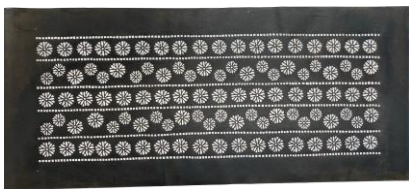
そこで、若者が自分の手で、本染浴衣の技術である草加本染を用いた製品を製作しました。製品の種類、デザインを自ら考案し、浴衣から汎用性のある形へと変化させました。



製品の種類は手ぬぐい、ハンカチ、巾着、コースターの計4種類であり、どれも現代の日常生活の中で使いやすいものとなっています。

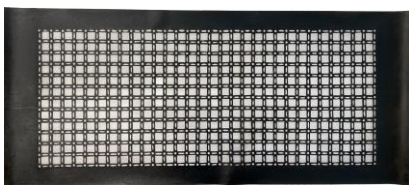
考案した製品のデザインは3種類です

SAIGIKU
～彩菊～



草加市の花である菊と、市松模様を構成する四角形を組み合わせたデザイン。注染の技法で浮かび上がる彩り豊かな菊がポイントです。菊の花言葉である「愛情」と「幸福」、市松模様が意味する「途切れなく続く」に思いを馳せながら型紙を製作しました。

YORISOI
～寄添～



草加本染は古いという固定観念を覆すために敢えて学生の直感を信じたデザイン。その時々抱えている感情に関わらず、全ての人に寄り添うことが出来るように丁寧に製作しました。また、この作品が末永く使われることを願いながら型を掘りました。

EIGAN
～永願～



伝統を想起させる印象深い柄を集めたデザイン。様々な柄を1つの世界として楽しむことも、お気に入りの柄を見つけることも出来ます。青海波柄は「未来永劫へと続く幸せへの願い」を意味します。草加本染を未来に残すとの願いを込めて取り入れました。

課題③ 入手困難



本染浴衣をはじめとする草加本染製品を販売している場所が限られています。

また、昼間さんのご高齢であり、自ら販売活動をするのは体力的に難しいです。



販売場所としての役割を担っていた草加駅高架下の草加市物産・観光情報センターは、草加本染に対する説明が少なく、製品が陳列されていただけの状態にあったため、製品が草加本染を用いたものだという認識が低いと考えられます。さらに、同施設は2022年9月末で閉館してしまい、購入することがより難しくなっていました。



そこで、私たちが販売活動をする事で少しでも購入の機会を増やそうと考えました。

主な販売場所は年間420万人が来客する草加マルイです。期間は2022年11月9日～14日までの6日間で行いました。また、10月1日に日比谷公園で開催された「空と緑のマルシェ」に出店し、草加市外の消費者にも草加本染製品の購入機会を提供しました。



手ぬぐい



巾着



ハンカチ



コースター

成果

👉 空と緑のマルシェでは、昼間氏が染めた既存の反物から製作した手ぬぐいと、学生自らが考案・型彫りまでを行い、昼間氏に染めていただいた反物から製作した手ぬぐいの大きく分けて2種類を販売しました。値段は両方とも1600円で出品し、合計42本の手ぬぐいを販売しました。来場者に草加本染製品が全て手作業で作られていることを説明しました。実際に製品に触れてもらったことで、適切な価値を知ってもらうことができ、購入まで繋がりました。

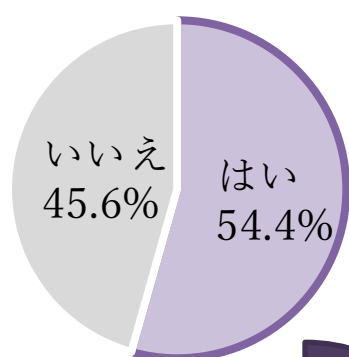
👉 草加マルイの販売では、手ぬぐいに加えてハンカチ、巾着、コースターを販売しました。6日間で合計300以上の製品をご購入いただきました。自分たちがデザインした製品はほとんど完売し、昼間氏の手ぬぐいも追加するほど好評でした。草加マルイでは、昼間氏に関する展示を行ったことで、商品の販売促進になりました。

💡 これらの販売において、伝統的な柄はハンカチなどの現代の形ではなく、手ぬぐいなどの伝統的な形で残っている方が来場者に人気でした。今後、草加本染製品を製作する際には、伝統的な柄をどんな製品として残していくのかを考え出すことが課題であると感じました。



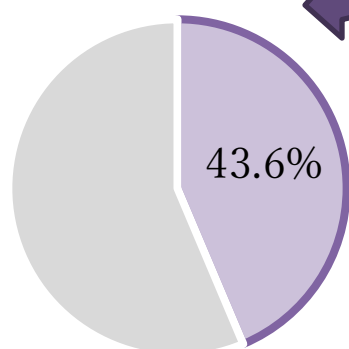
アンケート調査結果

～草加本染の認知度向上に、SNS、新聞、クチコミの相乗効果が威力～



Q: 草加本染LOVERSのイベントに参加するまでに、「草加本染」のことを知っていましたか？

→ 約46%（「いいえ」と回答した方）が
イベントで草加本染を認知



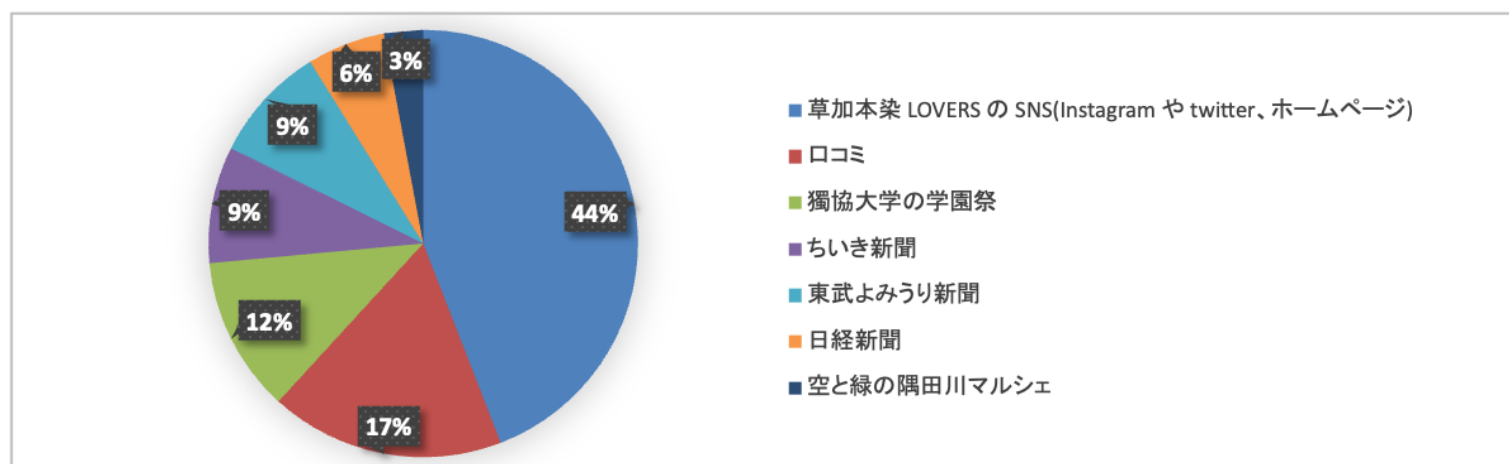
※上記で「はい」と答えた方が回答

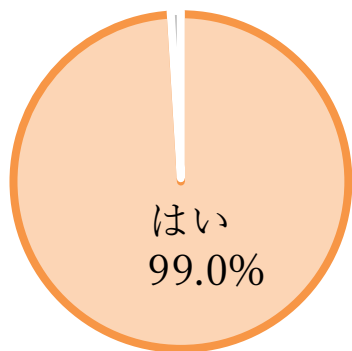
Q: どのような経緯で「草加本染」のことを
知りましたか？

→ 草加本染を知っていた人（54.4%）の
約44%が草加本染LOVERSの活動が要因

→ つまり、草加本染LOVERSの活動によって
全体の約69%が草加本染を認知

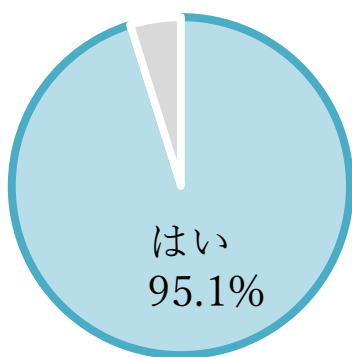
Q: 草加本染 LOVERSの活動を知ったきっかけは
次のうちどれですか？





Q: 草加本染 LOVERS の活動は「草加本染」を知る・より深く知る、または草加本染製品を購入するきっかけになりましたか？

➡ 無関心層 を 関心層に
関心層 を 行動層に移行



Q: あなたは草加市が浴衣・草加本染の常設展示施設を新たに作るべきだと思いますか？

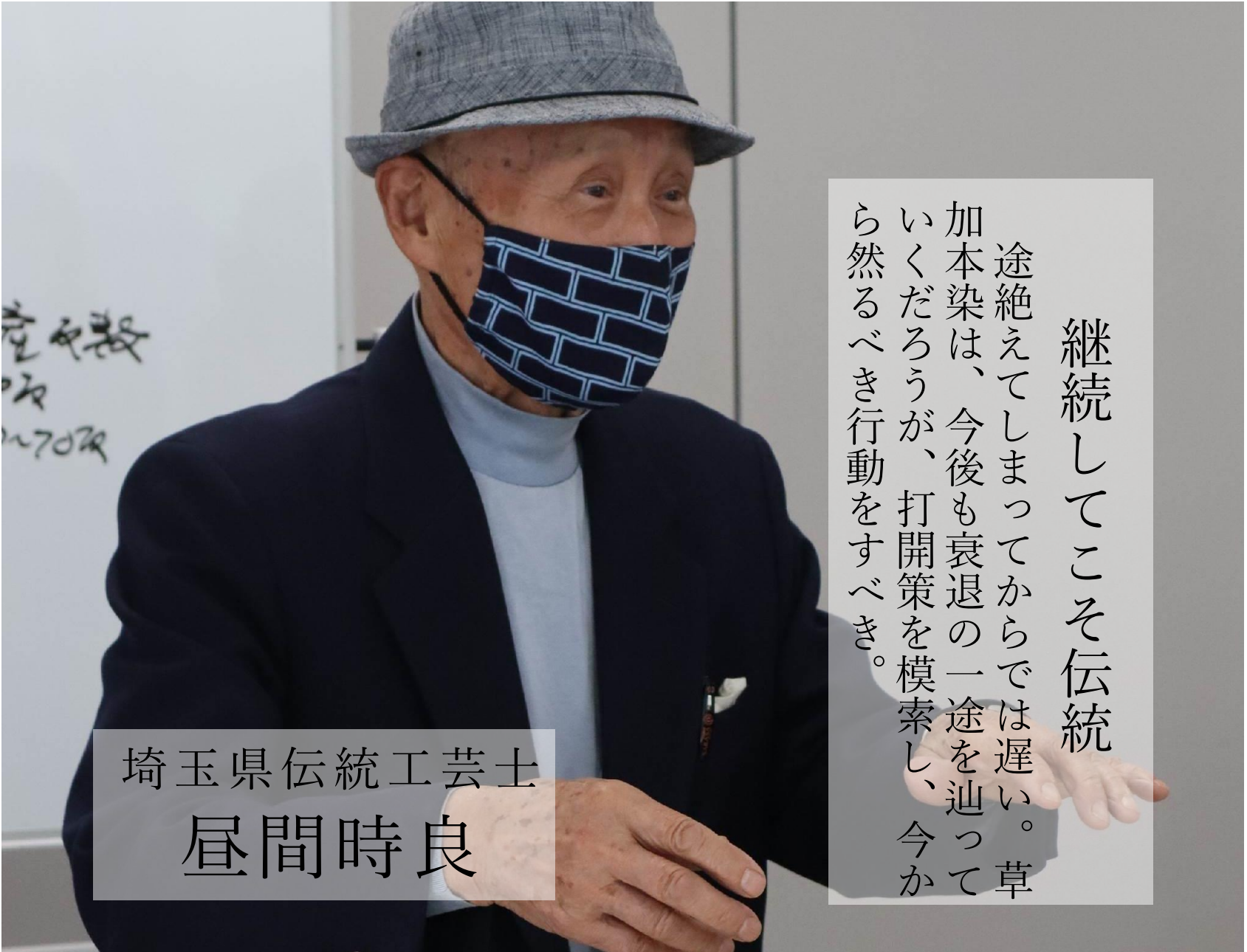
➡ 浴衣・草加本染の常設展示施設は必要

「草加本染」についてのアンケート
実施期間：2022年11月9日～14日
実施場所：草加マルイ 1階
回答者数：103名



協力者インタビュー





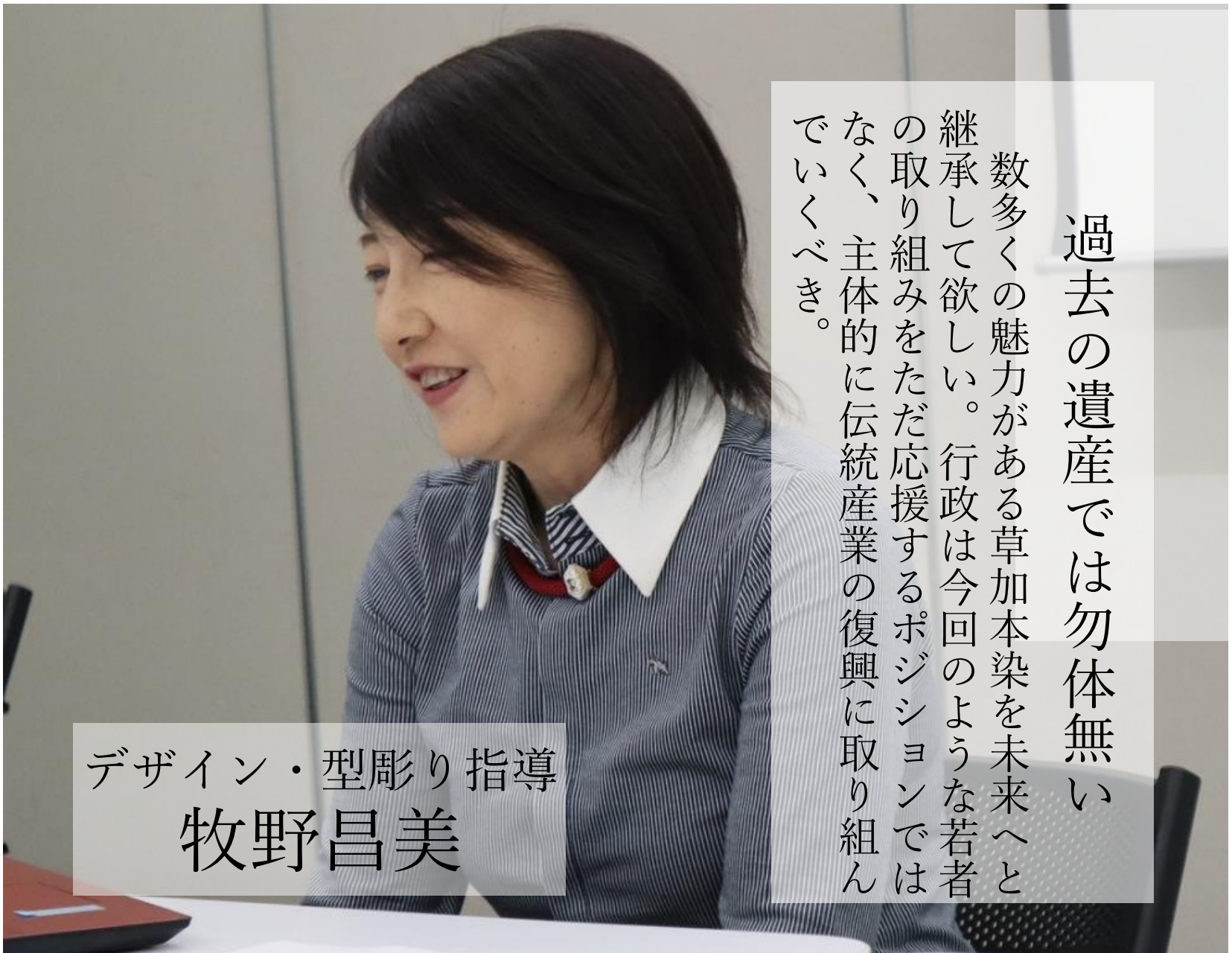
埼玉県伝統工芸士
昼間時良

継続してこそ伝統
途絶えてしまつてからでは遅い。草
加本染は、今後も衰退の一途を辿つて
いくだろうが、打開策を模索し、今か
ら然るべき行動をすべき。

プロジェクトに協力した理由は、若い世代の思いに心を躍らされたから。地元草加市にある獨協大学と創立五十八年目に於いて、初めてのコラボ。昼間さんは既に現役を引退されているが、今回は特別に依頼を引き受けた。今までに培われてきた職人の技術はまさに圧巻。彼によって染められた反物は、驚くほど美しい。さらに、協力だけでなく、学びの機会も提供。伝統は実際に技術を見て触れないと伝わらないことがたくさんあるという職人ならではの考えから、草加本染を間近で感じ取れるように指導。実際に使用する専用の道具を用いながら、草加本染の歴史や魅力、大変さ、職人としての生き方などを自身の経験を交えて説明。草加本染への熱い思いを語る。

待ち人來たる、願う

自身の力だけでは、草加本染を伝えていくことは難しいと語る。草加本染LOVERSのように伝統を残そうとする人は存在するし、この先も現れると期待している。



過去の遺産では勿体無い

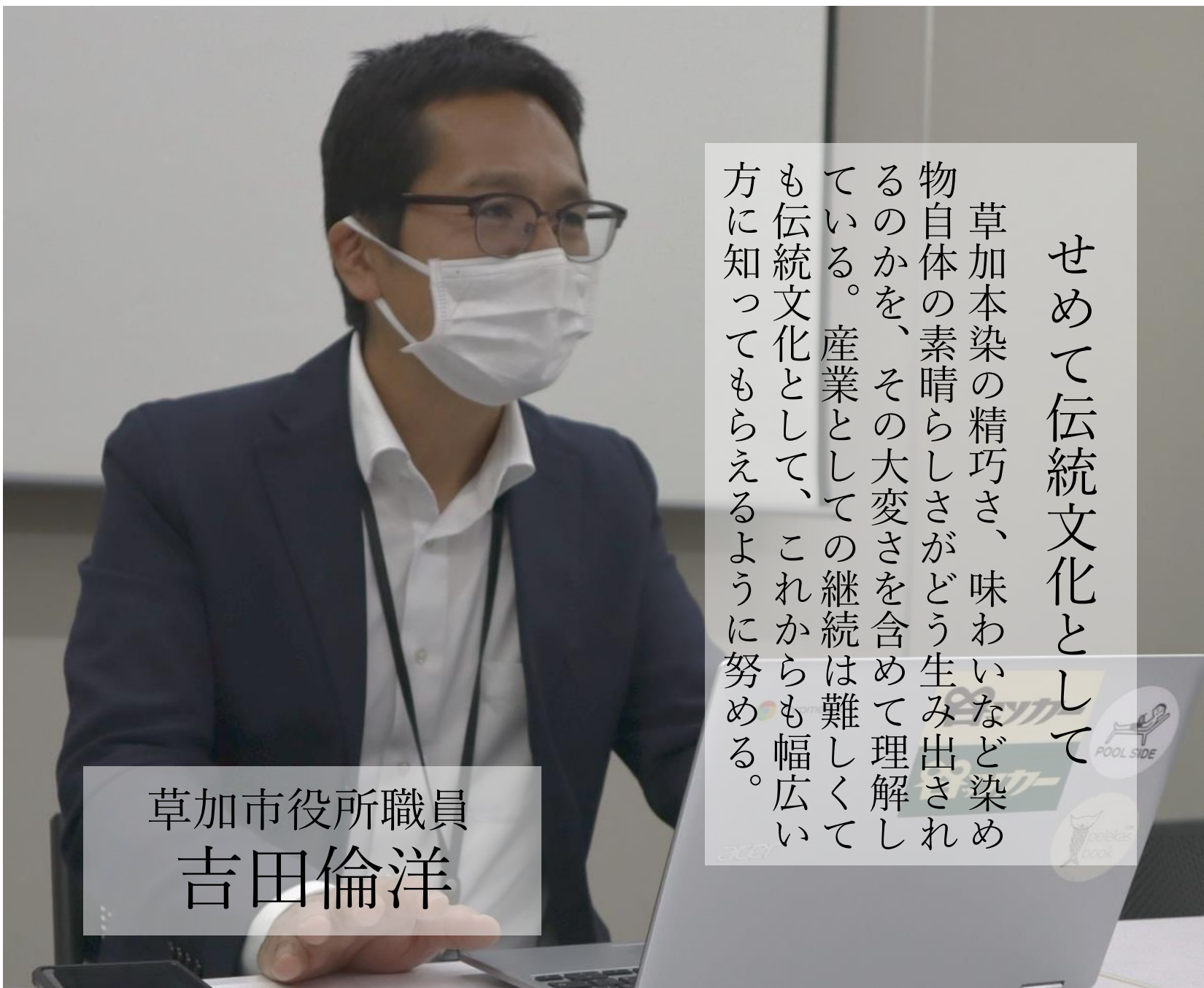
数多くの魅力がある草加本染を未来へと継承して欲しい。行政は今回のような若者の取り組みをただ応援するポジションではなく、主体的に伝統産業の復興に取り組んでいくべき。

デザイン・型彫り指導
牧野昌美

プロジェクトに協力した理由は、昼間時良さんからの依頼だったから。「昼間先生とはほとんど師弟みたいな関係なので断ることができなかった。」と笑いながら語る。牧野さんは長年、草加本染における、デザイン・型彫りに携わってきた。本染を担う職人とは違った視点で誰よりも草加本染の尊さを理解している。初心者でも時間をかけてコツを掴めば良い作品を制作することが可能であるが、短期間の制作ではデザイン・型彫りに制約が発生する。何が出来るよりも、何が出来ないかを重点的に指導することで、プロジェクトの効率化を図った。

職人の手

昼間さんは生活の為に仕事をしてきた「職人」である。長い職人人生の中で、与えられた仕事を熟すだけではなく、新しい染色技術を積極的に行い、技術の高みを目指す姿に見惚れる。彼の手を見るだけで、それまでに培ってきた全てを直感的に感じ取れると言う。絶え間ない努力を続けてきた先に結果が付いてくる。



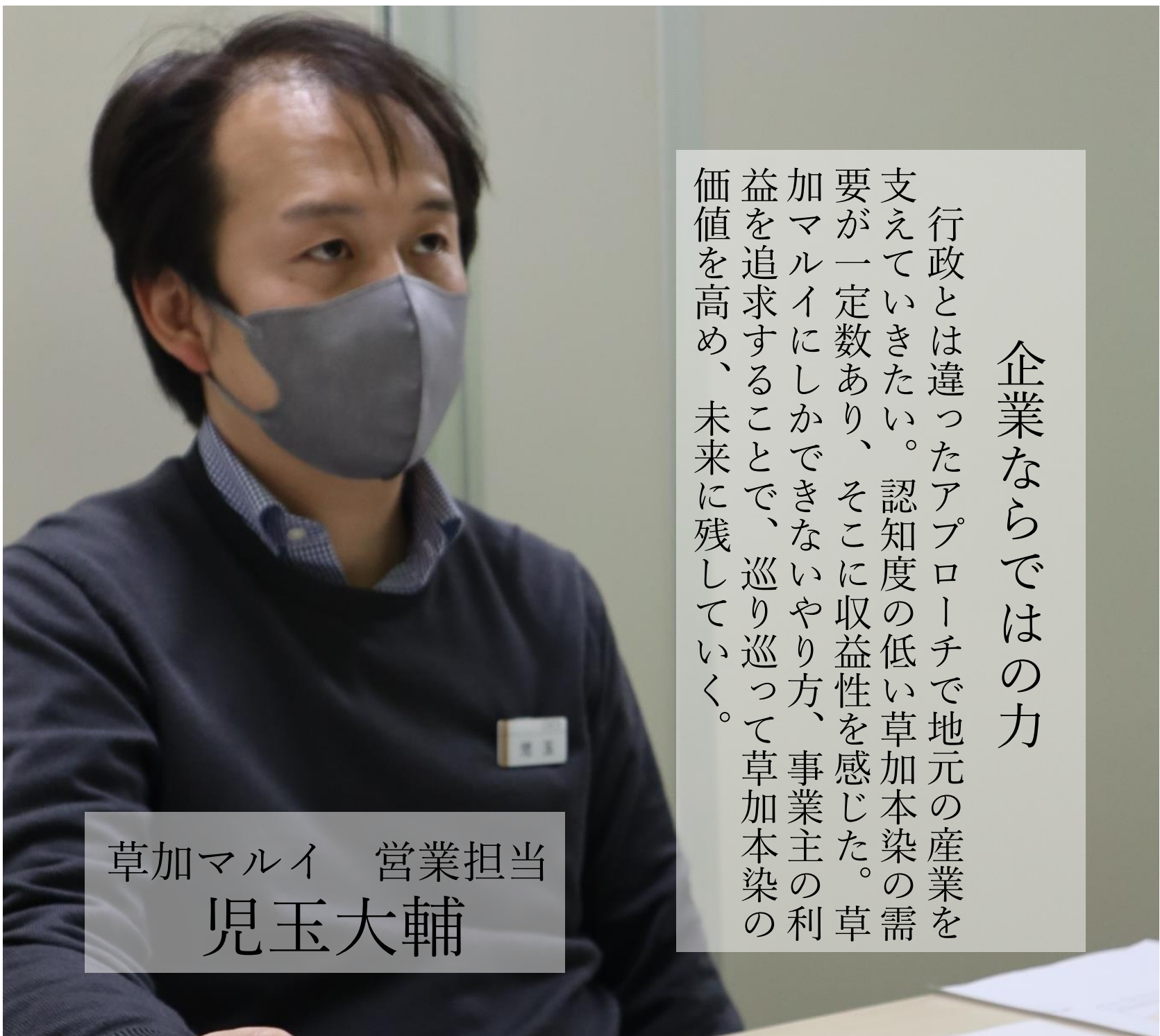
草加市役所職員
吉田倫洋

せめて伝統文化として
草加本染の精巧さ、味わいなど染め物自体の素晴らしさがどう生み出されるのかを、その大変さを含めて理解している。産業としての継続は難しくても伝統文化として、これからも幅広い方に知ってもらえるように努める。

プロジェクトに協力したきっかけは一通のメール。「昼間時良さんに関わる内容のため、産業振興課の中でも自分が適任だった。草加本染を今の若い世代の感覚で、取り上げてくれるということがとても嬉しかった。」と語る。実現が難しい内容ではあったが、納得がいく形になるまで全力を尽くすと覚悟を決めた。

思いと行動が人を動かす

草加本染LOVERSの思いが昼間さんを動かし、昼間さんの無茶ぶりが草加本染LOVERSを動かした。さらに、様々な人を巻き込みながら、プロジェクトが大きくなっていく様が近くで実感できた。また、草加本染LOVERSも先人を訪ね、色々吸収しながら自分たちの思いを積み重ねていって、今の形にたどり着いたと思う。共に活動する中で軸となる思いを持ち、状況に応じて柔軟に方向性を変えていく大切さを学ばされた。



企業ならではの力

行政とは違ったアプローチで地元の産業を支えていきたい。認知度の低い草加本染の需要が一定数あり、そこに収益性を感じた。草加マルイにしかできないやり方、事業主の利益を追求することで、巡り巡って草加本染の価値を高め、未来に残していく。

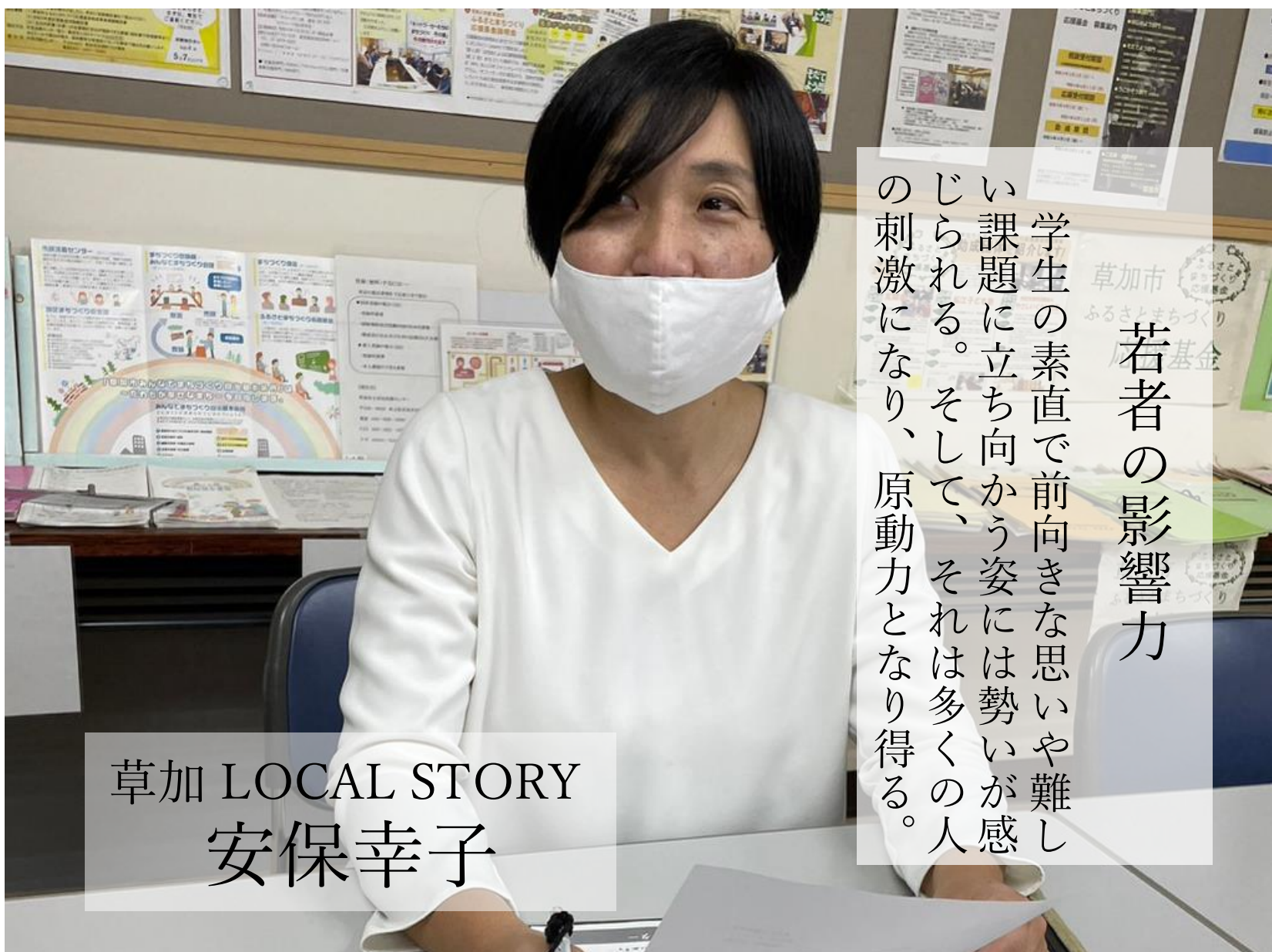
草加マルイ 営業担当
児玉大輔

プロジェクトに協力した理由は、草加本染LOVERSの取り組みに感銘を受けたから。ビジネスの経験がない学生とコラボすることには、少なからずリスクが存在する。また、地元の産業に関わることで、将来世代との共創に重きを置き、館内の魅力ある区画を提供。社内の様々な意見をまとめ上げ、草加マルイでのイベントを成功に導いた。

机上の空論で

終わらせない

草加本染LOVERSの話を初めて聞いた時、「実現できなかったとしても事業として成り立たない話だった」と語る。何度も打ち合わせを重ね、経営のノウハウを指導し、プロジェクトの事業としての実現性を高めていった。ビジネスの世界では、理想と現実の間を見極めることが重要である。



草加 LOCAL STORY 安保幸子

若者の影響力

学生の素直で前向きな思いや難しい課題に立ち向かう姿には勢いが感じられる。そして、それは多くの人の刺激になり、原動力となり得る。

プロジェクトに協力した理由は、学生が伝統産業に関わる活動をしているのが珍しいと関心を持ったから。草加本染の魅力を知り、同じ志を持つ者として、力を貸したいと行動に移した。安保さんは草加市内に限らず都内のマルシェにも参加して、草加本染製品を幅広く販売している。二〇二二年十月に行われた隅田川マルシェで草加本染LOVERSと共同出店した際には、「学生の力もあってイベント全体を盛り上げられた」と嬉しげに語る。また、彼女は美術大学出身。持ち前のセンスを活かした売り場のレイアウトやポスターなどは、プロジェクトの大きな助けとなった。

周囲を巻き込み広めていく

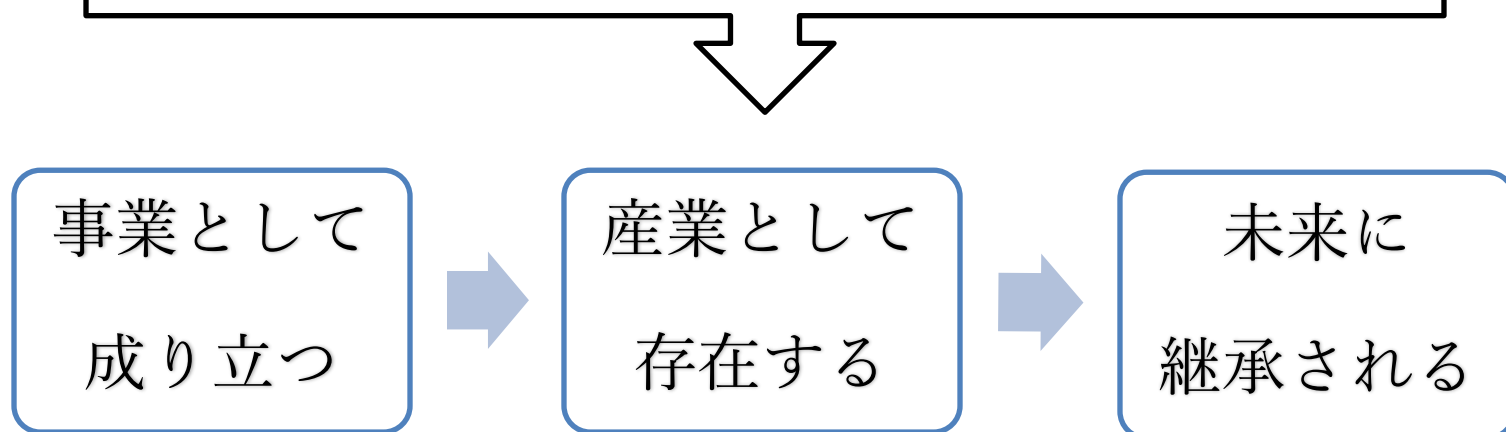
彼女が運営する「草加 LOCAL STORY」は小さい団体の為、たくさんの人と連携して輪を持つ必要があると思う。これからも様々な場所で開催されるマルシェなどを通して草加本染を紹介していく。まずは認知してもらおうことが大切で、より深く知ってもらえるように魅力を伝える。草加本染を知った人が、他の人に伝え、その人がまた他の人に伝えていって欲しいと願う。

3. 持続可能な 伝統産業の条件



草加本染LOVERSの提言

伝統産業を未来に継承していくためには、
この流れが必要不可欠です。



草加本染LOVERSの活動は、しかるべき費用を支払い、
相応の手順を踏んで販売活動を行ったため、
草加本染の事業化に取り組んでいたと言えます。

この活動を通じて、草加本染の事業化が
成功する要因が存在すると感じました。

私たちの経験をもとに、草加本染を未来に継承してい
くために必要な行動について提言していきます。

草加本染の価値を適切に伝える

CHECK

草加本染を紹介するウェブサイトは昔の写真と抽象的な説明文で、読み手にはうまく伝わりません。また、2022年9月に草加市物産・観光情報センターが閉館したため、草加本染を伝えていく場が縮小されてきています。

ACTION

展示・販売会では、活動中に撮影した写真や動画、お借りした道具を展示し、草加本染ができるまでの流れなどの詳細を丁寧に説明しました。来場者に対して草加本染の適切な価値を示し、製品の購入に繋げることができました。

POINT

草加本染の正しい価値が適切に伝わっていないことが、購入に繋がらず伝統として衰退していった理由の一つに該当すると考えます。

草加本染を未来に残していくためには、草加本染の認知が必要であり、草加本染の価値を適切に伝えることのできる情報の存在が重要です。

EXAMPLE

行政：常設展示やサイト、SNSを用いる現代に合わせたオンライン展示、草加本染の体験や製品の購入ができる場所や期間の宣伝、広報など、草加本染の存続への積極的な支援

職人：草加本染を作る立場としての意見や考えなど、興味を引くような情報の開示

形を変えた新しい伝統へ

CHECK

浴衣の着用機会の減少やプリント浴衣の増加により草加の浴衣産業は衰退してきました。

ACTION

若者の考えたデザインで、浴衣ではなく手ぬぐいやハンカチ、巾着、コースターに形を変えた製品を生産しました。表裏の判別ができないほど美しく染まる注染の特徴や速乾性、抗菌作用などの浴衣地の特徴を残しながら草加本染の製品を使用する機会を創出しました。

POINT

近年では、環境問題が注目されてきています。既存の技術よりも、SDGsに配慮されている形になっているかが重要視されています。長く使えば使うほど風合いが出る草加本染の特徴がSDGsとうまくかみ合う可能性があります。また、長い期間使えることによって、製品を使用する人の生活を豊かにする可能性を秘めた産業であるとも言えます。「伝統産業ではあるものの環境に配慮されている。」というような時代に合った需要を反映させる必要があります。

EXAMPLE

職 人：余剰の生地を出さない心がけ
余剰が出た場合に活用できるアイデアの考案
行 政：SDGsに取り組んでいる伝統産業のアピール
持続可能性を高めるアイデアの収集
若 者：使用機会を生み出す現代的なアイデアの発信
環境問題に対しての発信
作業工程：余剰が生まれない作業の心がけ
SDGsに配慮して作業

持続可能なまちづくり



伝統産業に対して草加市が総出で取り組むことは、SDGsに対しても積極的に取り組むことができるまちであると認識され、市のアピールができると考えます。

草加本染LOVERSの活動や提言が、今後新たなSDGsの目標達成に貢献できるプロジェクトの手助けとなり、草加市の持続可能なまちづくりの実現に繋がることを期待します。

プロジェクトの感想

～内藤俊介～

私が伝統産業について学んでいくなんて思ってもいませんでした。経済学部に入学したため経済しか学んでいかなーいと思ひ込んでいた数年前の私にこの姿を見せたいです。製造や販売、広報などの幅広い活動を行ったため、様々な分野で活躍している方々のお話を聞けたことが自分の成長に繋がり、プロジェクト活動をして良かったと感じました。チームとして雲行き怪しい期間もありましたが、それぞれのメンバーが最大の努力をしたからこそ、ここまでやってこれました。高安先生、草加本染LOVERS、高安ゼミ生、関係各位の皆様へ感謝しています。

～野中康成～

誰よりも草加本染の事に詳しくなれたと思います。歴史や現状、問題点、魅力などの様々な草加本染に関する情報の収集・分析を行い、多くの人にそれらを伝えてきました。私たちの活動がきっかけとなり、草加本染はもちろん、自身が住んでいる地元の産業に目を向ける心持ちを持てただけなら嬉しいです。また、プロジェクトを通して、物事の背景を知る大切さを学びました。一見すると価値のある物に見えてなくても、形になるまでの過程を知ることで本当の価値を理解できました。自信を成長させてくれたプロジェクト、協力して下さった方には感謝の気持ちでいっぱいです。

～長澤優～

多方面から多くの方々に協力して頂いた結果、製造から販売、展示までを実現させることができ、納得のいく成果を残すことができました。何よりも自身が草加本染の作り手側として一工程に関わることができたのはとても貴重な経験であり、多くの手間がかかっていることや大変さ、達成感など、経験したからこそ発見できることが多くありました。また、草加本染という素敵な伝統に出会うことができ、沢山の魅力を見つけることができました。この冊子や私たちの活動から、多くの人に草加本染の魅力が伝わり、未来に語り継がれたら嬉しいです。

～佐藤茉央～

プロジェクトには伝統工芸士の屋間さんをはじめ、多くの方のご協力があった成功したと思います。学生であるにも関わらず真摯に向き合ってくださいって、より一層励みになり、とても濃く質の高いプロジェクト活動になったと実感しています。また、本染製品を製作するにあたって、デザインと型彫りを体験、染めなどを見学させていただき、貴重な経験になりました。実際にやってみると、学んだこと以上に大変でしたが、同時に楽しかったです。このプロジェクトを通して、草加本染の魅力が多くの方に届き、草加市の伝統産業として残ってほしいと願っています。

～大西達也～

この活動始める前の自分の中には、「世代・国籍問わず多くの人に影響を与えたい」という想いがありました。活動をしていく中で、伝統とコラボ、1からデザイン、製品の製造、マルシェや草加マルイでの販売を行い、徐々に自分達の活動の目的である「草加本染を広げる」ということがアンケート結果やお客さんの声を見て実感しました。また、自分は主に広報担当として、この活動をどのように伝えるかや屋間さんが話されていたバーチャル博物館の実現ができたと思います。多くの方々にご支援・ご協力をいただき草加本染の認知度向上と伝統を日常に取り入れるきっかけづくりのパイオニアになることができ嬉しいです。

～富山想～

活動始める前までは、草加の三大伝統産業に本染浴衣があることさえ知りませんでした。また、伝統は自分とは遠い存在で伝統を広めていく活動をするなんて夢にも思いませんでした。実際に活動をする中で草加本染の大変さ、難しさ、そして素晴らしさを体感し、草加本染が大好きになり、この伝統を残したいと強く思うようになりました。販売で自分が体感した思いをお客様に伝え、お客様が草加本染を褒めてくださるとすごく嬉しい気持ちになりました。それと同時に自分たちの目標を達成できた喜びを感じました。今後も多くの人に草加本染の素晴らしさが伝わり、この貴重な伝統を産業として継承されることを願います。

草加市伝統マップ

本染を知るならココ！



1. 伝統産業展示室「ぱりっせ」

時 間：10:00~17:00

休館日：毎月第1水曜日・年末年始・年2回臨時休館ほか

所在地：〒340-0013 草加市松江1-1-5

草加市文化会館コミュニティー棟1階

アクセス：獨協大学前駅から徒歩5分

2. 草加宿芭蕉庵

時 間：11:00~16:00

休館日：月曜日（祝日の場合は翌日を休館）・年末年始
（12月29日~1月3日）

所在地：〒340-0012 草加市神明2-5-1

アクセス：草加駅から徒歩12分

3. 草加市 観光案内所

時 間：10:30~17:00

休所日：年末年始（12月29日~1月3日）・草加マルイの休館日

所在地：〒340-0015 埼玉県草加市高砂2-9-1 草加マルイ1階

アクセス：草加駅から徒歩 1分

4. 草加市役所 産業振興課

時 間：8:30~17:00（水曜日夜間21:00まで）

休業日：土曜日・日曜日・年末年始・祝日

お問い合わせ：048-922-0839（商業・観光関連）

048-922-3477（工業・融資・地場産業）

所在地：〒340-8550 埼玉県草加市高砂1-1-1

1 伝統産業展示室「ぱりっせ」
 草加市の伝統産業製品である「せんべい」、「皮革製品」を扱うアンテナショップ。草加本染の反物や道具に関する常設展示は必見です。



私たちもレンタルしました！



2 草加宿芭蕉庵

草加松原をはじめとする市内の観光案内や、地場産品の販売を行うお休み処。毎年7月1日頃から期間限定で、本染浴衣の着付け・レンタルを実施しています。

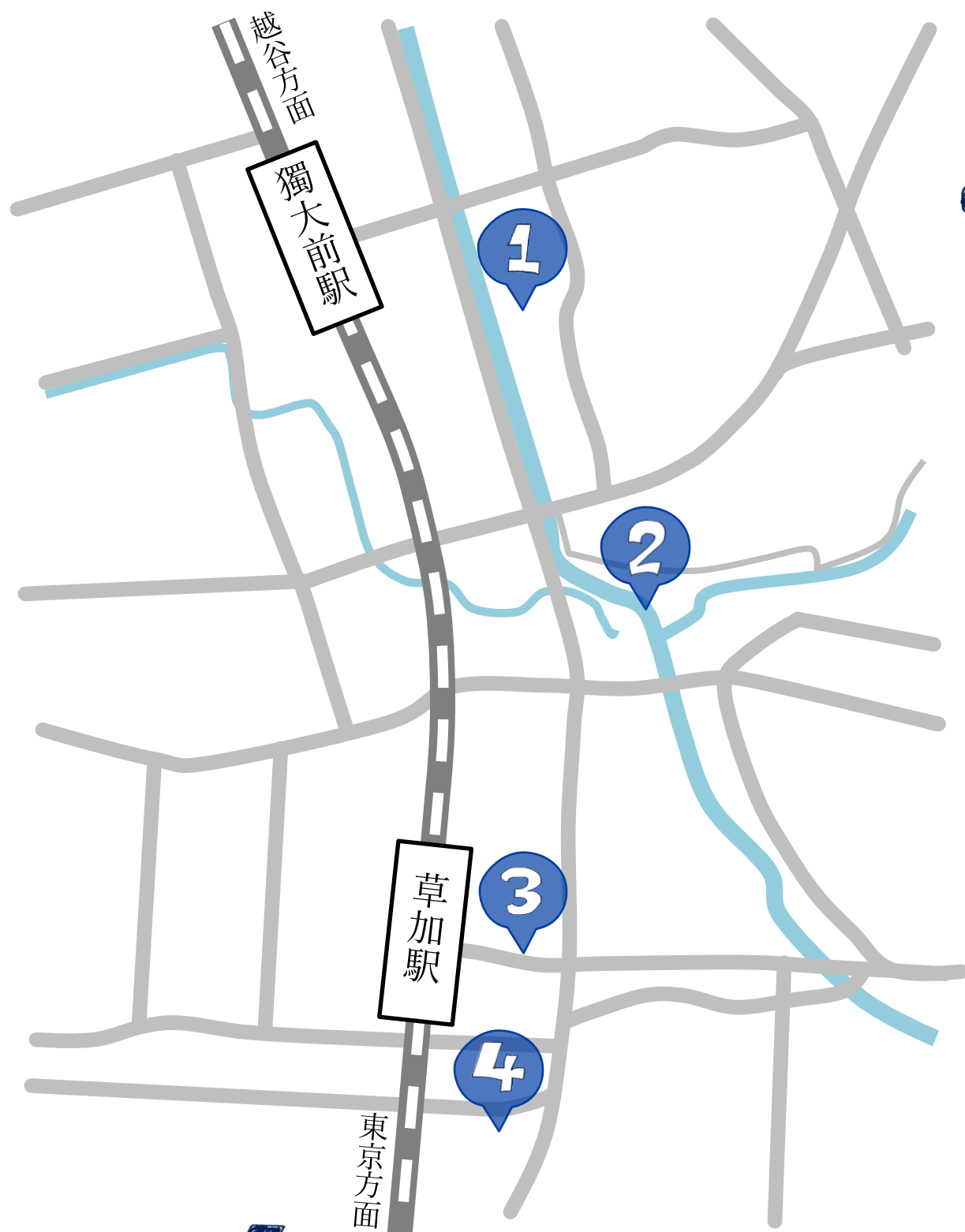


3 草加市 観光案内所

草加市の新たな観光拠点施設として、2022年10月に草加マルイ1階にオープン。観光・産業・歴史文化に関する情報の提供を行っています。

4 草加市役所

伝統産業に関するお問い合わせは草加市役所「産業振興課」へ。



謝辞

ご指導・ご協力頂いた全ての皆様に心より感謝申し上げます。



Special Thanks

- ・ 伝統工芸士 昼間時良様
- ・ デザイン・型彫り指導 牧野昌美様
- ・ 草加市役所 吉田倫洋様
- ・ 草加市役所の皆様
- ・ 草加 LOCAL STORY 安保幸子様
- ・ 草加宿神明庵運営協議会 角田良子様
- ・ 草加市応援伝統ご当地キャラクター
そうかニャン
- ・ 草加マルイ 川瀬啓之様
児玉大輔様
村上翔央様
大熊朋子様
- ・ 株式会社バニーズ 野中貴史様
- ・ 獨協大学経済学部 高安健一教授
- ・ 獨協大学教職員の皆様
- ・ 高安ゼミの皆様

<参考文献>

- ・ 竹内淳子（1991）『ものと人間の文化史 65- I ・ 藍 風土が生んだ色』
- ・ 竹内淳子（1999）『ものと人間の文化史 65- II ・ 藍 暮らしが育てた色』
- ・ 埼玉縣『大正三年埼玉縣統計書第三卷（勸業之部）』
『大正十年埼玉縣統計書第三卷（勸業）』
- ・ 草加市史編纂委員会『草加市史』
- ・ 埼玉県民族工芸調査報告書『埼玉の注染』
- ・ 草加市役所 展示資料
- ・ 草加本染ゆかた
<http://www.jtco.or.jp/kougeihinkan/?act=detail&id=411&p=11&c=14>
- ・ 草加市役所 ゆかたの製造工程
<https://www.city.soka.saitama.jp/cont/s1403/010/010/030/yukata.html>
- ・ SAITAMA CRAFT CENTER – 埼玉伝統工芸会館
<https://www.saitamacraft.com/tokusub29.html>
- ・ 草加市-埼玉県
<https://www.pref.saitama.lg.jp/b0104/sityougaiyou/soukagaiyou.html>
- ・ 東京本染ゆかた | 東京の伝統工芸品 | 東京都産業労働局
<https://www.dento-tokyo.metro.tokyo.lg.jp/items/19.html>
- ・ SDGs JOURNAL
<https://sdgs-support.or.jp/journal/sdgs/>

伝統のあるまちは、
あなたが誇れるまち。



未来へ続く草加本染

－持続可能な伝統産業への挑戦－

2022年12月2日 初版

2022年12月28日 改訂版

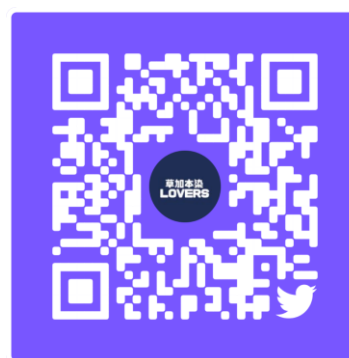
著者 獨協大学 経済学部 高安ゼミナール
草加本染LOVERS

Mail esitenafashion@gmail.com

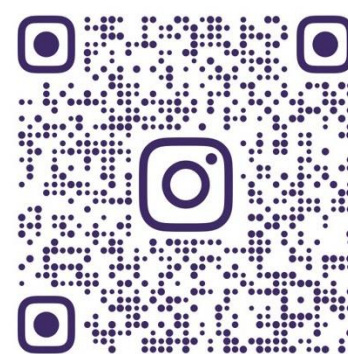
Facebook takayasuseminar2017

住所 獨協大学
埼玉県草加市学園町1-1

※無断転載禁止



Twitter



Instagram